

〔箋注倭名類聚抄蒜〕本草和名凍葱在葱實條別無和名。按凍葱卽今食用葱、非別種。詳見上條不由歧不知斥何物。

〔類聚名義抄八〕葱 葱 下正歛 音聰 ヒル キ ナキ 冬葱 フユキ

〔伊呂波字類抄八〕葱 葱 植物附植物具 葱 韶菜 葺 同 葱 實 山葱 蒿 百反 諸古 胡葱 興渠 倉蒿 三名已上

〔出兼〕凍葱 凌冬 漢葱 冬葉死 葱白冷 葱 莖中涕也、已上 蘿葱 冬根 沙葱 莖上出崔禹

〔名苑〕不生死 蘿葱 不根 沙葱 上出崔禹

〔鱗葱〕味甘 潻葱 味辛 細葱 溫、已上三種 波蘭 出七卷食經、名苑 時空停 已上キ、出五金粉藥決

〔大上龍御名之事〕女房 ことば

一き ひともじ

〔饅頭屋本節用集比〕草木 葱 ヒトモジ

〔易林本節用集幾〕草木 葱花 葱 同 草木 ヒトモジ

〔日本釋名下〕葱 きとはきたなき也。其臭くさくきたなし。ひともじと云は葱の訓きの字二字なるゆへ名づけたる也。

〔東雅十三〕葱キ 倭名鈔に葱はキ、冬葱フユキといふ。漢語鈔に島蒜はアサツキといふ物は、本朝式文にも是を用ゆ。また水葱はナギ、一に薜菜といふ。今按するに薜宜作穀。唐韻に蘷は水菜可食也。と見えたりと註したり、キといふ義並に不詳。蓋の類を呼びてキといふは、其根畝ふべきをいふなり。總名なり。今俗に子島の字よむでアサキといふは、韓國の方言と見えたり。さらばキといふも、もとは彼方言に出ししも知るべからず。或人の説に、蒜をヒルといふは、猶畫といふが如し。されば其語を反してアサといふ也。アサとは朝也。ツは調助也。キは即葱也。といふなり。いかにやあれば、ナギは天智天皇の御代の童謡を始めとして、古歌にも亦よめり。其義は不詳。橋のヤボウシといひ、草花にギガウシといひ、又聲に葱花といふ制あるも、皆此物によりて云ひしなり。

〔鹽尻三十〕葱和名きの一宇を名とする故、一文字とよべり、

〔物類稱呼生植〕冬葱ねぎ 關西にてねぶかと云、近江にてひともじと云、常に用ゆる所をされ共